

事業報告書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

1. 自然普及事業

自然環境の保全とその適正な利用にかかる調査研究、人材育成、普及啓発、顕彰、森林利活用の推進等の事業を行った。

(1) 調査研究事業

阿寒川水系の水と森林に関する調査（平成16年度からの継続調査）

阿寒川水系の水と森林に関する調査を昨年度に引き続き実施した。財団が管理する森林内を流れる阿寒川水系上流域における3河川（キネタンベツ川、チクショベツ川については平成16年度より継続、チュウレイ川については、平成27年度より継続）で降雨量、流量、土砂濃度等の調査を実施した。

事業費 1, 259, 227円(予算額 1, 200, 000円)

(調査：山形大学農学部 菊池俊一准教授)

事業概要

現地調査

日程 令和2年6月10日 河川水自動採取装置3箇所設置

(チクショベツ川、キネタンベツ川、チュウレイ川の各調査区)

令和2年6月～11月 水の採取等の現地調査実施

(2) 人材育成事業

1) 一步園自然セミナー開催事業

日本をはじめ世界中で感染拡大が認められた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は釧路地域でも感染が認められ、その拡大が懸念されていたことから、感染予防対策の基本である「密閉」「密集」「密接」のいわゆる「3密行動」を避ける必要が求められたことから、不特定の参加者を得て実施する本事業については中止とした。

事業費 0円（当初予算額 1,090,000円、補正予算で0円）

2) 前田奨学金助成事業

高等学校以上の就学能力がありながら、経済的理由により進学が困難な者に対し、広く高等教育を通して自然環境の保全などに関する知識の習得を促進するため、前年度に引き続き、釧路市前田奨学金に対して助成を行った。

事業費 1,000,000円（予算額 1,000,000円）

(3) 普及啓発事業

1) 観察会開催事業

(ア) ネイチャーウォッチング

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大により、釧路地域でも教育機関においても休校、リモート授業等で対応される中で、釧路市全域から不特定の児童を一同に会して実施する本事業についても「密閉」「密集」「密接」の「3密行動」を避け感染予防対策の観点により中止とした。

事業費 0円（当初予算額 434,000円、補正予算で0円）

(イ) 自然観察支援事業

当財団管理山林内において、北海道教育大学附属釧路小学校「自然環境教育プロジェクト」と連携し、同校小学2年～6年生を対象に、森林、河川、野生動植物、水生生物、昆虫等を題材に教科教育と連動した自然体験プログラム（延べ11回、参加者277名）並びにネイパル北見と連携した当財団管理森林内での自然観察会（森歩き）プログラムを（1回、参加者12名）実施した。

事業費 70,252円（予算額 110,200円）

(ウ) 特別支援事業

阿寒アドベンチャーツーリズム株式会社からの寄付金を活用し、財団管理森林内での次世代の自然環境を担う人材育成に寄与するための自然環境教育に関する主体的な活動に助成金として支援した。

事業費 475,800円（予算額 475,800円）

支援先

- ・北海道教育大学附属釧路小学校 316,800円

支援事業名

阿寒湖畔自然体験学習（4学年及び6学年）

- ・阿寒湖のマリモ保全推進委員会 159,000円

支援事業名

阿寒湖の森とマリモを守る～水草を活用した自然保護プロジェクト～

2) 前田一步園財団自然環境保全活動助成事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する活動、刊行等の事業に対して助成を行った。また、(公財)秋山記念生命科学振興財団との助成活動合同報告会については新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大防止を鑑み中止とした。(尚、合同報告会は実施10年を区切りとして令和2年度をもち終了することとした。)

事業費 2,472,400円(予算額 6,168,000円)

事業概要

○ 令和2年度被助成者

① 宮島沼の会(美唄市)

助成内容: 美唄市フットパス・ハンディ図鑑

宮島沼と防風林周辺で見られる植物の出版事業 助成額: 600千円

② ネイチャー研究会 in むかわ(むかわ町)

助成内容: 「むかわタンチョウ物語」絵本出版事業 助成額: 300千円

③ 大雪山・山守隊(当麻町)

助成内容: 近自然工法による登山道修復教本作成業務 助成額: 300千円

④ 野幌森林公園を守る会(江別市)

助成内容: 野幌森林公園におけるクマガエラ保全活動及び生息環境調査 助成額: 200千円

⑤ ふらっと南幌(南幌町)

助成内容: 幌向原野の再生・管理・保全・調査 助成額: 600千円

⑥ 釧路武佐の会（釧路市）

助成内容：「釧路湿原 二百花選」制作・刊行 助成額：350千円

※ 助成総額 2,350,000円

○ 審査経過

令和2年1月15日 募集広報

令和2年3月26日 審査委員会【書類選考】開催（応募件数：道内の団体・個人より計13件）

○ 審査委員

梶本 孝博 氏（委員長・財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

三村 起一 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

本間 博人 氏（北海道環境生活部環境局自然環境課長）

3) 森林利活用推進事業

財団創立30周年を契機に、平成26年度より取り組みを開始した「森の学校」事業において、「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）においては、学校教育の現場で森林並びにその取巻く自然環境（地形・地質・野生動植物・河川等）を活用できる教員育成に資するため、北海道教育大学釧路校学生を対象とした指導者養成事業の「きっかけポ

ン／阿寒の森プロジェクト」を昨年度に引き続き実施した。

「レクリエーション・健康の森」では当財団が認定した「一歩園森の案内人」が実施する管理森林内のガイドツアーによる今年度の入林者数は４０６名（日本人３８５名 外国人２１名）で、昨年度の入林者数（１，０１７名（日本人８４０名 外国人１７７名））と比較して、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受け大幅に減少した。しかし、自然志向の高まりなどから「一歩園森の案内人」による森林散策等への関心が高まりを見せてきており、一部事業体において「一歩園森の案内人」が不足している状況にあること、さらに、財団森林を活用したアイヌ文化のガイドツアーを検討している阿寒湖アイヌコタンからの要請もあったことから、今年度「一歩園森の案内人」の養成事業を再開した。

「研究の森」（森林を学術、調査研究に活用する事業）では東京農業大学生物産業学部との連携協定に基づき、財団管理森林内において天然林やエゾシカをテーマにした「卒業研究（４年次・３年次）」に対する支援を行った。

○「教育の森」（森林を教育的に活用する事業）

・指導者養成

北海道教育大学釧路校との連携

財団管理森林（光の森）をメインフィールドとして、次世代の教育者を目指す学生並びに現役教員等に対し、学校教育に係る教材開発、活用を見据えた自然観察・体験活動の場を提供した。

実施日並びに参加者

令和２年１１月２１日北海道教育大学釧路校 大学生等２２名

令和３年２月２６日～２７日（１泊２日）北海道教育大学釧路校 大学生等２０名

○「レクリエーション・健康の森」（森林をレクリエーションや健康増進に活用する事業）

- ・令和２年度「一歩園森の案内人」による入林者数（令和２年４月～令和３年３月）

入林者数 ４０６名（日本人３８５名 外国人２１名）

外国人の国籍別内訳

アジア等４人 アメリカ９人 ヨーロッパ７人 その他１名

- ・「一歩園森の案内人」（ガイド）の養成

５名（事業体１名、アイヌコタン４名）

○「研究の森」（森林を大学や学術機関等の研究活動に活用する事業）

- ・研究支援

卒業論文４件に係る、財団管理森林の解説、研究フィールドの選定支援、研究フィールドの提供を実施した。

実施日並びに参加者

令和２年８月～令和３年３月 東京農業大学生物産業学部生（４年次４名、３年次１名）

- ・実習支援

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止の観点から、東京農業大学生物産業学部が実習中止としたため実施しなかった。

事業費 ３７７，８１８円（予算額 １，１４６，０００円）

(4) 顕彰事業

前田一步園賞事業

北海道の自然環境の保全とその適正な利用に関する分野で活躍している団体・個人の優れた業績をたたえて前田一步園賞を贈呈した。また、未来を担う子供（小中学生）たちの自然環境の保全活動を顕彰する一步園ジュニア自然環境賞を贈呈した。

尚、表彰式については新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止を鑑み中止とした。

事業費 1, 343, 492円（予算額 2, 408, 000円）

事業概要

○ 前田一步園賞顕彰者

- ・大雪山マルハナバチ市民ネットワーク（美瑛町） 北海道上川総合振興局推薦

業績： 大雪山及びその前線となる西側地域を主なフィールドに、特定外来生物であるセイヨウオオマルハナバチについて防除活動や学習会の開催、突哨山や高山帯（黒岳、旭岳など）の様々なエリアでの生息・繁殖モニタリングを実施する傍ら、それらのデータを基にした講演会やパネル展示など一般市民への普及啓発活動にも尽力。

- ・黒松内ブナ林再生プロジェクト（黒松内町） 黒松内町教育委員会推薦

業績： 黒松内岳の笹地にブナ林を再生したいと考えた有志により、試行錯誤を重ねながら、独自のブナ林再生手法を確立し、北限のブナ林の再生に尽力する傍ら、エコツアーの新たな形として、ツアーがもたらす自然への負荷分をブナ林再生活動として補うブナ林再生植樹ツアーの企画、ブナ種子の配布（里親募集）やドローンによるブナ林映像の上映等を通じてブナの大切さ、素晴

らしさを伝える普及活動にも取り組む。

○ 一步園ジュニア自然環境賞顕彰者

- ・ 浜頓別町ジュニアガイドアカデミー（浜頓別町） 浜頓別町推薦

業績： 浜頓別町の自然や観光資源を体験・学びながら、積極的に町内外への広報にも資する活動をガイドという形で発信。具体的にはクッチャロ湖やベニヤ原生花園での活動をはじめ、かまくらを掘り一晚を過ごす「耐寒キャンプ」、漁業見学やサケ・マス孵化場見学、砂金堀り体験などで得られた知見なども活用して様々な機会（町民向け講演会、酪農学園大との環境キャンプ、全国KODOMO ラムサール等）を通して発信浜頓別町の自然や観光資源を体験・学びながら、積極的に町内外への広報にも資する活動をガイドという形で発信。

- ・ わくわく自然体験教室（遠軽町） 遠軽町教育委員会推薦

業績： 遠軽町丸瀬布及び白滝地域をフィールドに、昆虫採集による生態調査やウチダザリガニ等の外来種駆除を通じて生態系への関心を高め、在来種の保全活動を実施する傍ら、「東洋一の黒曜石原産地」と評される黒曜石を活用したエゾシカ肉の調理実習など、四季を通じた自然の中での体験活動を通して、地域特有の自然や文化、歴史風土に対する「郷土愛」を育む活動を実践。

○ 一步園ジュニア自然環境賞奨励賞顕彰者

- ・ つるいっ子の体験活動グループ“サルルンガード”（鶴居村） 鶴居村教育委員会推薦

業績： 地域特有の自然を知る活動としてキタサンショウウオ、湿原の植物、タンチョウに関連した観察会や調査（餌資源量・巣・観光客向けアンケート等）を実施する傍ら、住民向け活動発表会などの村内外での活動内容や成果の発信。

・NPO 法人 サロベツ・エコ・ネットワーク

なまら！！サロベツ∞クラブ（豊富町） 豊富町教育委員会推薦

業績： サロベツ湿原をフィールドに、自然保護の大切さやつき合い方、自然に対する思いやりなど豊かな人間性を育みながら地元で幅広い活躍が出来る人材、次世代の環境リーダーを育成するため、1年を通した自然観察活動をはじめ、植樹などの保全活動などを実践。

○ 審査経過

令和2年 6月 1日 候補者推薦依頼（環境省、北海道、市町村、市町村教育委員会）

令和2年 9月29日 審査委員会開催

（推薦件数：前田一步園賞6件、一步園ジュニア自然環境賞4件）

令和2年11月13日 受賞者発表

（表彰式については新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡散防止のため中止）

○ 審査委員 梶本 孝博 氏（委員長・財団理事）

大原 昌宏 氏（北海道大学総合博物館副館長・教授）

大原 雅 氏（北海道大学院地球環境科学研究院教授）

柴田 真年 氏（公益財団法人 北海道環境財団専務理事）

安田 直人 氏（環境省北海道地方環境事務所長）

本間 博人 氏（北海道環境生活部環境局自然環境課長）

（５）地域保全事業

１）山火事予消防活動助成事業

阿寒湖畔地区の森林を火災から守るため、森林愛護思想の普及啓発と山火事予消防活動への支援、装備の充実に必要な用具に対して助成を行った。

事業費（助成） 299,000円（予算額 300,000円）

（助成先：阿寒湖畔森林愛護組合）

２）エコミュージアムセンター活動助成事業

阿寒湖畔エコミュージアムセンターの活動に対して助成を行った。

事業費（助成） 800,000円（予算額 800,000円）

（助成先：阿寒湖畔エコミュージアムセンター運営推進協議会）

（６）前田記念館管理事業

前田記念館および庭園の整備と保守管理を行った。

事業費 260,000円（予算額 540,000円）

2. 森林保全事業

基本財産である山林は、全域が国立公園特別地域、水源かん養等保安林及び鳥獣保護区に指定されており、公益的機能の維持・向上が強く求められている。このため、森林を適正に保全し、風致景観や野生鳥獣生息環境などの、森林のもつ多面的な機能を維持・向上するため、令和2年度においても引き続き保全管理・人工林保育・天然生林改良の各事業を実施した。

(1) 保全管理事業

1) 巡視事業

山火事予防、入林者の危険防止、立木の盗伐防止、自然保護思想の普及等を図るため、林内に巡視人や、林道入口に監視人を配置するとともに、阿寒湖畔沿いにある道有地の自然環境の保全及び活用にかかる北海道の「公有財産管理委託業務」を受託し、当該土地及び立木の管理に関する業務を実施した。

事業費 1,979,000円（予算額 2,000,000円）

（請負等先：阿寒湖畔森林愛護組合、(有)前田一步園林業）

2) エゾシカ食害対策事業

北海道の発表によると令和元年度のエゾシカによる道内農林業被害額は38億円（前年度比6千万円減）であった。振興局別の農林業被害金額は、釧路管内が11億3千万円（道内全体の29.7%）と前年度に引き続き全道で最も多かった。

北海道では平成12年度より「エゾシカ保護管理計画」を策定し個体数管理等の取り組みを推進しており、現在第5期（平成29年度策定）の管理期間（5年間）である。第5期計画期間において個体数指数（釧路市を含む東部は平成

5年度の指数を100と設定)を50以下にする目標を設定しているが、令和元年度の東部個体数指数は128であった。同計画において個体数指数50は「大発生水準」、25を「暫定目標水準」と定めており、これらの状況を踏まえると、依然捕獲対策の推進が必要な状況にあると考えられる。

このような中であって、財団管理森林内においてはこれまで継続してきた給餌や囲いワナによる捕獲といった対策事業により樹皮喰等の被害を抑制することに成功しているが、楽観視はできない状況である。

このため、令和2年度も前年度同様「ビートパルプの給餌」、「囲いワナによる捕獲」、「樹皮防護ネット巻き」といった対策事業を継続して実施したことにより森林被害防止に努めた。これらの対策とあわせて、エゾシカの生息状況や給餌事業の効果などについて、大学や研究機関と連携して調査を実施した。

令和2年度の事業量は、令和元年度設置の囲いワナ2基撤去、囲いワナ3基の設置、ビートパルプ給餌1,056個(63,360kg、補助金活用分を含む)、囲いワナ(3基)による捕獲109頭および、餌場周辺の樹皮防護ネット巻き60本である。

なお、令和2年度の森林被害防止対策の内、囲いワナの設置(1基)及び囲いワナ内の誘引を目的とした給餌(17個)に関しては、補助金(令和2年度エゾシカ森林被害防止強化対策事業)の交付申請を行い、同補助金を活用し実施した。また、令和3年1月22日～3月23日に捕獲したエゾシカ(95頭)については、令和2年度鳥獣害被害対策防止総合対策交付金を申請し、同交付金を受領した。

加えて、令和2年11月に設置された「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策協議会」(事務局：環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所)に構成員として参加し、「阿寒摩周国立公園エゾシカ対策実施計画」策定に関する会議において、阿寒湖地区のこれまでの対策の説明や現状の課題について意見を伝えた。なお、同計画の対象期間は、令和3年

度～令和8年度までの5年間であり、同期間中、国立公園内の森林所有者の立場で対策の実施や情報の共有等を実施する。

事業費 12,254,636円（予算額 12,220,000円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

事業概要

- ・ 囲いワナ撤去事業

令和元年度に設置した2箇所の囲いワナの撤去

- ・ 給餌事業

給餌場、ワナ内の給餌

（春季：令和2年4月1日から令和2年4月14日まで実施、19箇所、156個給餌）

（冬期：令和2年12月21日から令和3年3月25日まで実施、18箇所、900個給餌）

給餌合計 1,056個（ビートパルプ 1個60kg、給餌総量63,360kg）

- ・ 囲いワナ設置、捕獲事業

囲いワナ設置、捕獲

（春季：令和2年4月1日から令和2年4月8日まで、設置：2基、捕獲：2回実施、7頭）

（冬期：令和3年1月22日から令和3年3月30日まで、設置：3基、捕獲：24回実施、102頭）

捕獲回数合計 26回

捕獲頭数合計 109頭

3) 林道事業

春の雪解け後の全山林道・作業道の支障木除去、ならびに既設の林道・作業道の維持管理、および排水管・止水板等の関連設備の補修・設置を実施した。

事業費 6,325,900円(予算額 4,000,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

4) 調査事業

林分構成の整備を図るため、現況調査を令和2年度間伐実施区域である3111・3113林班の天然生林にて行った。加えて、調査に必要な消耗品、備品を購入した。

事業費 989,700円(予算額 1,230,000円)

5) 危険木等処理

危険木・支障木等の処理(伐採・移動等)を実施した。

事業費 70,000円(予算額 500,000円)

(請負先:(有)前田一步園林業)

(2) 人工林保育事業

1) 植樹祭事業

植樹祭に係る苗木の購入、地拵え、下刈を実施した。

事業費 350,000円(予算額 320,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

2) 除間伐・枝打事業

植栽木の健全な成長を促進させるため、人工林35.28haの間伐、37.30haの保育間伐、21.8haの枝打、および伐採木(473m³)の搬出を実施した。

事業費 15,151,100円(予算額 16,710,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業、釧高運輸㈱)

作業実施林小班 間伐 : 3083-3、3085-3・5・7

保育間伐 : 3083-2、3085-10、3113-6

枝打 : 3083-3

3) 人工造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成29年度に植栽した人工造林地の4.70haの下刈を実施した。

事業費 297,000円(予算額 230,000円)

(請負先：(有)前田一步園林業)

作業実施林小班 3084-12

(3) 天然生林改良事業

1) 誘導造林事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、8.69ha(平成28年度台風被害跡地5ha含む)の天然生林の樹下

にエゾマツ・アカエゾマツ・トドマツの苗木（５，４００本）を植栽した。また令和３年度植栽予定地１２haの地拵えを実施した。

事業費 ４，８１８，０００円（予算額 ４，７３０，０００円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 植栽：3075-6、3118-2

地拵：3119-3

２）誘導造林下刈事業

林木の健全な成長を促進させるため、平成２７年～令和元年の植栽地３３．７６haの下刈を実施した。

事業費 ２，１３９，０００円（予算額 ２，５８０，０００円）

（請負先：（有）前田一步園林業）

作業実施林小班 3074-12、3083-24、3089-2、3090-1、3090-17、3093-9

３）天然生林間伐事業

天然生林において林分構成の充実を図るため、７９．１７haの間伐、７haの更新伐、および伐採木（７７６ｍ³）の搬出を実施した。

事業費 １９，９３８，６００円（予算額 ２２，１２０，０００円）

（請負先：（有）前田一步園林業、釧高運輸(株)）

作業実施林小班 間伐：3111-1、3113-2、3119-3

更新伐：3119-3

(4) 業務費

森林保全事業に係る「旅費交通費」、「諸謝金」、「雑費」を支出した。

事業費 784,299円(予算額 1,350,000円)

(5) その他業務

視察等の受入れ

教育機関、行政機関、各種団体からの視察要望に対応した。受入件数は7件、人数は75名であった。

おもな視察受け入れ内容

2年 4月 2日	1日	エゾシカ対策〈仁成ファーム〉	(4名)
2年10月 6日	1日	エゾシカ対策〈阿寒湖小学校〉	(19名)
2年10月17日	1日	森林視察〈北見北斗高校〉	(16名)
2年10月19日	1日	天然林施業〈レディース100年の森林業グループ〉	(8名)
2年10月22日	1日	森林視察〈内閣官房アイヌ総合政策室〉	(3名)
3年 2月12日	1日	エゾシカ対策〈阿寒湖小学校〉	(19名)
3年 3月18日	1日	エゾシカ対策〈留萌市役所農林水産課〉	(6名)

3. 土地貸付事業

基本財産である土地（山林、宅地等）は、全域が国立公園特別地域、保安林、鳥獣保護区に重複して、あるいは単独で指定されている。さらに阿寒湖畔の土地は、国立公園集団施設地区に指定されているなど、公益性が強く求められている。

このため、土地の管理保全及び適正な利用を図り地域の振興に資するため、前年度に引き続き土地の貸付を行った。

なお、本年度の土地貸付料においては、新型コロナウイルスによる観光業へのダメージが非常に大きかったことを鑑み、関係する事業者の地代金を3分の1（約33%）減免することとした。

（1）土地保守・管理事業

財団所有地における土地の保守と管理を目的に、主に空地等の緑化や車両の進入を防止することを目的にプランターやベンチなどの設置を行なった。

事業費 459,455円（予算額 650,000円）

（2）土地貸付

前年度に引き続き、表2-1のとおり土地の貸付を行った。

（表2-1）土地貸付等状況一覧

契約区分	令和2年3月現在		令和3年1月現在		備 考
	契約件数	貸付等面積	契約件数	貸付等面積	
有償契約	203件	520,261 m ²	203件	520,261 m ²	電力会社送電線敷地41haを含む。
無償契約	20件	356,991 m ²	20件	356,991 m ²	北海道、釧路市、森林管理署、アイヌ協会外
計	223件	877,252 m ²	223件	877,252 m ²	

4. 温泉事業

当財団が所有する源泉は、阿寒湖温泉のほぼ全域のホテル・旅館等に温泉を供給しており、その公益性が強く求められている。このため、源泉及び温泉供給設備の拡充と安定供給体制をより一層強化するため、施設整備の計画的な推進を行った。

なお、本年度の温泉使用料においては、新型コロナウイルスによる観光業へのダメージが非常に大きかったことを鑑み、関係する事業者の温泉代金を3分の1（約33%）減免することとした。

（1）温泉供給施設の整備

1）揚湯ポンプの拡充事業

各源泉共通予備の温泉ポンプ（7.5kw×1台）及び、揚湯管（8本）を購入し、温泉の安定供給の確保に努めた。

事業費 2,166,000円（予算額 2,400,000円）

（2）温泉成分分析事業

北海道から義務付けられている温泉成分の分析期間10年を経過する源泉があったため、温泉成分の分析を北海道立衛生研究所に依頼した。

事業費 251,200円（予算額 251,200円）

（3）新源泉掘削事業

令和2年度事業で予定していたチップ川源泉に代る新規源泉掘削事業は、新型コロナウイルス感染拡大による観光事業者への甚大な影響を鑑み行った土地及び温泉使用料の減免措置による経営への影響や、今後のコロナウイルスによる観光業へ

の影響が不透明であることを考慮し中止とした。

事業費

0円（当初予算額 36,900,000円、補正予算で0円）

（４）源泉及び温泉供給設備の管理

令和３年１月現在の当財団所有源泉数は前年度から増減なく１５本（内、稼働中１１本、休止２本、観測井２本）である。
前年度に引き続き、令和２年度においてもこれら源泉及び温泉供給設備の管理保全に努めた。

（５）温泉供給

前年度に引き続き、表５－１のとおり温泉供給を行った。

（表５－１）温泉供給状況一覧

供給区分	令和２年３月現在		令和３年１月現在		備 考
	契約件数	供給本数	契約件数	供給本数	
有償供給	63 件	292 本	63 件	292 本	
無償供給	3 件	4 本	3 件	4 本	北海道（阿寒湖畔診療所）等
自家用		3 本		3 本	暖房等財団諸施設
計	66 件	299 本	66 件	299 本	

５． その他

（１）ホームページ管理委託事業

ホームページの管理及び、更新等を専門業者に委託した。

事業費

216,000円（予算額 216,000円）